

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	注意・集中の持続、言葉の理解、教師の伝え方、安心した学習環境
【学校、学年】	小学校 【 1 】年
【状況、様子 等】	<p>○学級の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い時間であれば集中ができる児童が数名いた。 ・筆記技能について配慮や支援を必要とする児童や、黒板に書かれた文字をノート等へ書き写すことに時間を要する児童がいた。 ・生活経験の差や語彙獲得の状況に個人差が見られた。 ・休みがちな児童が在籍していた。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動から読む活動など、活動が変わる際に必要のない物が机の上に置いたままにならないよう「ノートパタン(ノート閉じて)」など学習の中で教師の伝えたいことが伝わるようにした。(学習規律) ・教師が伝えた活動の指示に応じている児童に対し、「あっているよ。」と声をかけ、安心して学習に取り組むことができるようにした。(学級経営) ・国語「どうやって みを まもるのかな(説明文)」では、「てきが きたら うしろむきになって とげをたてます。」の読み取りにおいて、動きや様子を捉えやすくなるよう、動作化やモデルの提示などを取り入れた。また、状況を捉えやすくなるよう、教師が敵役、児童が身を守る動物役になり動作化することで、様子や動きを表す言葉のイメージ化に迫った。(手立て) ・クラス内の座席について、両サイドグループの児童たちが黒板の中心に体が向くよう、馬蹄形に近い配置を採用した。(学級経営・集団作り) ・ノートへ書き写す対象が、正面の黒板から左90度の位置にある電子黒板の文字へと授業の流れの中で変化することで、姿勢が不安定になり、書き写す際の目の動きも複雑化して、書字に一層の困難さが見られる児童がいた。そのため、見る対象の位置が変化する際には、席の向きを対象の方に向けるなどの工夫を行った。また、書きづらいと感じている児童には、その間机の向きを変えても良いことを確認した。(合理的配慮・個に応じた配慮)
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイやジェスチャーなど、動きを取り入れた活動に取り組む時間を意図的に設けたことで、動物に詳しい児童たちが活躍する場や、興味関心を持続するための動機づけにつなげることができた。 ・書き写す対象を正面にすることができるよう配慮したことで、姿勢の崩れも少なくなり、筆記技能を向上させるための一助とすることができた。また、時間を多めに確保することで、より安心感を持って学習に取り組むこともできた。